

国土交通省「交通空白」解消本部（第1回）議事要旨

日 時：令和6年7月17日（水）15:30～15:55

場 所：中央合同庁舎3号館10階共用会議室（オンライン併用）

議 題：「交通空白」の解消に向けた対策について

齊藤本部長訓示

配付資料：資料 「地域の足」「観光の足」の現状と対策

参考資料1 国土交通省「交通空白」解消本部の設置に関する訓令

参考資料2 国土交通省「交通空白」解消本部の構成員

出席者：齊藤 鉄夫 国土交通大臣（本部長）

堂故 茂 国土交通副大臣

こやり隆史 国土交通大臣政務官

石橋林太郎 国土交通大臣政務官

尾崎 正直 国土交通大臣政務官

吉岡 幹夫 事務次官

廣瀬 昌由 技監

水嶋 智 国土交通審議官

天河 宏文 国土交通審議官

寺田 吉道 国土交通審議官

村田 茂樹 大臣官房長

池光 崇 大臣官房公共交通政策審議官

五十嵐徹人 鉄道局長

鶴田 浩久 物流・自動車局長

宮武 宜史 海事局長

稲田 雅裕 港湾局長

平岡 成哲 航空局長

萩川 直也 観光庁長官

小林 太郎 大臣官房審議官（公共交通政策、物流・自動車局）

妹尾 浩志 北海道運輸局交通政策部長（代理出席）

川崎 博 東北運輸局長

藤田 礼子	関東運輸局長
佐橋 真人	北陸信越運輸局長
中村 広樹	中部運輸局長
北川 健司	近畿運輸局交通政策部長 (代理出席)
臼井 謙彰	神戸運輸監理部長
金子 修久	中国運輸局長
河野 順	四国運輸局長
原田 修吾	九州運輸局長
星 明彦	沖縄総合事務局運輸部長

---

## 1. 開会

### ○事務局

ただいまから、第1回「国土交通省「交通空白」解消本部」を開催いたします。

進行を務めます総合政策局交通政策課長の小熊でございます。

本日の資料は、お手元のタブレットに保存されております。また、配付資料も配付しておりますが、タブレットについては各自で操作を行っていただきますようお願いいたします。

## 2. 「交通空白」の解消に向けた対策について

### ○事務局

それでは議事を進行させていただきます。

「交通空白」の解消に向けた対策について、池光公共交通政策審議官よりご説明をお願いいたします。

### ○国土交通省 池光公共交通政策審議官

公共交通政策審議官の池光でございます。私から、お手元の資料に基づきまして、「地域の足」「観光の足」の現状と、国土交通省「交通空白」解消本部の設置につきまして、御説明をさせていただきます。

まず、2ページでございます。人口減少や高齢化が進む中、免許返納を行いました高齢

者をはじめ、地域交通の確保に対する不安が各地で高まっております。一方、ドライバー不足等を理由に、バスの減便・廃止等が相次いでおり、その確保は危機的な状況でございます。

続いて、3ページでございます。そうした中、斉藤大臣に議長をお務めいただきました「地域の公共交通リ・デザイン実現会議」において、交通空白地、地方中心都市、大都市など各地域の特性を踏まえた「移動の足」の確保に向けた取組の方向性が、先般、示されたところでございます。その際、昨年来、運用改善を重ねてまいりました「公共ライドシェア」（自家用有償旅客運送）や、本年4月に創設された「日本版ライドシェア」につきましては、「交通空白」を解消する新しいツールとして、地域の足の確保に対する解決策の1つとして、特に期待をされているところでございます。

4ページでございます。現時点で、「公共ライドシェア」又は「日本版ライドシェア」を実施又は実施に向けて準備中の自治体は約1,100にのぼります。全部で1,700あまりの自治体がございますので、残る約600自治体につきましては、これらライドシェアが導入されていない、いわば「交通空白」の状況でございます。

5ページでございます。地域の足を支える取組の事例として、乗合タクシーやAIオンデマンドなどが活用されているほか、神奈川県三浦市では4月より公共ライドシェアがスタート、石川県金沢市では6月より日本版ライドシェアが導入され、タクシーが不足する時間帯に27台のライドシェア車両が稼働しております。こうした対策を全国各地で展開していく必要があると考えております。

6ページでございます。さらに、移動の足の確保にあたっては、自治体や交通事業者のみならず、JAや観光協会、商工会など多様な関係者の参画も大変重要であり、各地で取組事例も出てきております。本年6月の「農村漁村・活力再生パッケージ」に盛り込まれているように、各省連携の取組が進められております。

8ページでございます。次に、「観光の足」です。訪日外国人の宿泊者数は、水際措置の緩和以降、大きく回復しているところでございますが、グラフにありますように、7割以上が三大都市圏に集中しております。さらなるインバウンドの拡大が見込まれる中、オーバーツーリズム対策の観点からも、地方への分散が急務と存じます。一方、資料右側にありますように、新幹線や特急停車駅のような、いわゆる玄関口に当たる駅において、タクシー等の二次交通が十分でない現状も指摘されており、地方誘客のボトルネックとなることが懸念されております。

9 ページでございます。こうした交通結節点における「観光の足」の確保にあたっては、MaaS等の取組に加え、京都府福知山市の鬼タクのような「公共ライドシェア」、長野県軽井沢市のような「日本版ライドシェア」がその対策のカギとなってまいります。

また、JR四国の予讃線において実証実験が行われているような予約方法の改善、あるいは、地域の玄関口たる駅におけるタクシー乗り場・待合所の改善などの乗客の利便性・安全性の向上も併せて重要と考えております。

10 ページでございます。加えまして、日本版ライドシェア、公共ライドシェアの更なるバージョンアップにも取り組んでまいります。第1弾として、今月、雨天時の車両供給量の拡大を実施したことに加え、この夏はイベントへの対応等を実施してまいります。さらに、第2弾として、新たなダイナミックプライシングなど運賃・料金の多様化の検討やタクシー以外の運送事業者の参入促進についても検討を開始してまいります。

11 ページでございます。先ほど申し上げた、今月から開始した雨天時の対応についてです。1時間5mm以上の降水量が予報される時間帯に、日本版ライドシェアの供給車両数を必要な分拡充することを内容としています。まずは大都市部の12地域で開始し、他の地域への拡大についても今後検討してまいります。

12 ページでございます。ここまでご説明してきたように、「地域の足」「観光の足」の確保は喫緊の課題であります。これら「交通空白」について、全国の自治体・交通事業者の皆様とともに一刻もはやく交通空白を解消していくため、国土交通省に「交通空白」解消本部を立ち上げることにいたします。斉藤大臣を本部長として、本省関係部局から地方運輸局まで、国土交通省の総力をあげて、これに緊急に取り組むことにいたします。

具体的には、「地域の足」対策として、全国すべての自治体において、タクシー、乗合タクシー、日本版ライドシェアや公共ライドシェア等を地域住民が利用できる状態を目指すとともに、「観光の足」対策として、新幹線駅、特急停車駅、空港など全国の主要交通結節点において、タクシー等を来訪者が利用できる状態を目指して、全国各地の実態調査と営業活動、さらには伴走支援を開始いたします。

本年9月までに特に先行的に解決する必要性が高い自治体や交通結節点を対象に、12月までに残る自治体・交通結節点を対象に取組を進めてまいります。

併せて、日本版ライドシェアや公共ライドシェアのバージョンアップを積極的に進めてまいります。

自治体の皆様、交通事業者の皆様に伴走しながら、一つ一つ「交通空白」の解消に取り

組んでまいります。各構成員の皆様の御協力のほど、何卒、よろしくお願いいたします。

#### ○事務局

ありがとうございました。次に、鶴田物流・自動車局長よりご発言をお願いいたします。

#### ○鶴田物流・自動車局長

地域交通の確保が喫緊の課題となる中、これまで、「日本版ライドシェア」の導入や「公共ライドシェア」の大幅な制度改善を行ってきました。これらは、いわば手段であり、目的、つまり問題の本質は、地域交通の「担い手」や「移動の足」の不足の解消です。

他方で、手段と申し上げましたが、この手段に注目が集まったことをきっかけに、全国の自治体、特に首長さん自身の間で、地域交通を我が事として考える、我が事として動くことが増え始めていると実感しています。また、首長さん側、タクシーなど交通産業側ともに、互いに連携する気運が高まっています。本省と地方運輸局の自動車部局としても、本日立ち上がりました国土交通省あげでの体制の中で、新たな手段を含めて「地域の足」や「観光の足」として実装されるよう、日本版ライドシェア等のバージョンアップと全国普及をはじめとして、スピーディーに取り組んでまいります。

#### ○事務局

ありがとうございました。次に、萩川観光庁長官よりご発言をお願いいたします。

#### ○萩川観光庁長官

国内外の観光需要はコロナ後、急速に回復し、訪日客数は3か月連続で1つの月に300万人を超えています。一方で、訪日客の宿泊者数の7割以上が三大都市圏に集中するなど、偏った傾向も見られるところです。

このため、観光庁では、地方への誘客をしっかりと行っていきたいと考えておきまして、こうした観点からも、地方部における駅に着いた後の二次交通の確保・充実は極めて重要な課題であると考えています。

今後、空港、新幹線・特急停車駅など主要交通結節点における移動手段の確保に向け、しっかりと取り組んでまいります。

○事務局

ありがとうございました。それでは、「交通空白」解消に向けて既に自治体へトップセールスを最前線で行っている地方運輸局を代表して、藤田関東運輸局長より、ご発言をお願いします。

○藤田関東運輸局長

関東運輸局長の藤田です。全国の地方運輸局長がウェブで参加しておりますが、大変僭越ながら代表して、一言、私どもの決意を述べさせていただきたいと思います。

「交通空白」に関しては、関東運輸局管内でも、また、全国的にも、切実かつ喫緊の課題となっているものと肌で感じているところであります。そのため、今回の本部の立ち上げに先んじて、自治体の首長の方々との面会調整を多数行っており、早速、いくつかの自治体には、私自身が直接お伺いしてまいりました。お会いした首長の方等からは、「日本版ライドシェアや公共ライドシェアは報道で気になっていたが、その内容がよく分かってよかった」、「地域交通問題が一段と深刻化する中で改めて対策の検討を始めるところであり、今後ぜひ運輸局にも相談させてほしい」といった声を頂きました。

こうした現場の声に応えられるように、今後も地域の声に耳を傾けながら、取るべき方策を自治体・交通事業者と一緒に悩み、一緒に考えてまいりたいと思います。

全国の運輸局・運輸支局が一丸となって、我々の強みである「現場力」を生かし、「交通空白」の解消に向け、スピード感をもって全力で取り組んでまいりたいと思います。ご指導のほど、どうぞ、よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。その他、せっかくの機会ですので、他の運輸局長の皆様も、ご発言がございましたら、簡潔にお願いいたします。

中村中部運輸局長お願いいたします。

○中村中部運輸局長

ありがとうございます。中部運輸局長の中村でございます。私からも一言、発言をさせていただきます。中部運輸局におきましても、本日の会議に先立ちまして、自治体の首長さんへの訪問を始めているところでございます。この交通空白の解消に向けましては、日

本版ライドシェアの創設や公共ライドシェアの運用改善などが行われておりまして、「移動の足」を確保するためのツールが以前よりも格段に増えたと我々も感じているところでございます。

首長や事業者の方々など地域の皆様とお話しをする際には、これらの新しい移動手段を含めまして、「地域の足」「観光の足」を確保するための方策をしっかりと御説明するとともに、各地域の移動に関するお困り事を丁寧にお伺いしたいと考えております。その上で、地域の実情に即した解決策を地域の方々とともに、考えることによりまして、交通空白の解消を図ってまいりたいと考えております。本省のご指導・サポートを何卒、よろしくお願いいたします。

#### ○事務局

その他、どなたか、もう一方よろしいでしょうか。

原田九州運輸局長お願いいたします。

#### ○原田九州運輸局長

九州運輸局長の原田でございます。九州もインバウンドが非常に好調であり、一部地域では、オーバーツーリズムの状態にあるような地域もありますけれども、一方で、人口減少や災害の影響で生活の足の確保もままならない地域もあります。そういった形で地域によってニーズが様々であり、それぞれに応じた処方箋が必要なわけですが、今回のライドシェアの仕組みは非常に強力な支援策だと心強く感じている次第でございます。

本日も大分県の佐藤知事とこの問題について、お話をしてまいりましたけれども、知事も公共交通の確保というのは、県の重要な政策課題だと認識しておられました。今回のスキームについても、大変共感いただいたところでございます。

また、実際に大分県別府市では、具体的に公共ライドシェアを活用した取組が先月から動き出しているということも聞いております。

九州運輸局としても引き続き、自治体への働きかけを続けてまいります。この問題の解決は併せて、タクシー事業者の皆様との理解と協力が極めて重要だと考えております。国と自治体と事業者の3者がしっかりと連携を取りながら、交通空白の課題に取り組んでまいりたいと思いますので、引き続き、ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

### 3. 斉藤本部長訓示

○事務局

それでは、最後に「国土交通省「交通空白」解消本部」の構成員に対して、斉藤本部長より訓示をいただきます。斉藤本部長、よろしくお願いいたします。

○斉藤本部長

国土交通大臣の斉藤鉄夫です。今日、リアルで参加いただいている構成員の皆様、また、オンラインで参加いただいている地方運輸局長の皆様、今日は本当にありがとうございます。

今日、第1回の「交通空白」解消本部を迎えました。私自身、強い決意の元で「交通空白」解消本部の設置をさせていただきました。そして強い決意の元で参加いただいている皆様に一言、お話しさせていただければと思います。

昨年来、ライドシェアを巡る議論が展開されてまいりましたが、問題の本質は、「地域住民や観光客がタクシーなどの移動手段を利用できない状態を、いかに解消できるか」でございます。まさに、「交通空白」は、我が国のあらゆる地域における待ったなしの課題です。

地域のバス・鉄道の減便・廃止や、運転者の人手不足により、移動手段を確保できない地域住民の日常生活に不便が生じているという現状は、直ちに改善しなければなりません。

また、地域において、観光客の二次交通を確保できないことが、成長の重要なエンジンである観光需要の取り込みや、地方部への更なる誘客促進の足かせとなってはなりません。

このため、この本部においては、全国の自治体及び主要な交通結節点での「交通空白」の解消に向けて、9月及び12月という短期間の区切りを設けて、取組を強力に進めることとしたいと思います。

「地域の足」と「観光の足」を確保し、「交通空白」を解消していくためには、先般創設した日本版ライドシェアや、運用改善した公共ライドシェアの活用・バージョンアップを含め、各地域の実情にあった方策を一刻も早く導入できるよう、取り組んでいくことが必要です。

先ほど、藤田、中村、原田各運輸局長から、報告と力強い決意表明がありました。ありがとうございます。地方運輸局が、地域に寄り添って築いてきた現場のネットワークを最大限活かして、局長自らが自治体の首長を直接訪ねるなど、自治体や交通事業者とともに課題に向き合い、地域の「交通空白」問題のいわば「主治医」として、知恵を絞って進めさせていただきたいと思います。私たち、ここにいる本省の人間も全力でサポートし、頑張ります。

また、「地域の足」・「観光の足」の確保に当たっては、鉄道、航空等の交通事業者の御協力を仰ぐことも必要となりますので、本部員は、しっかりと連携して取り組んでいただきたいと思います。地方の交通空白を解消するという事は、地域の生活を守る事、そして、大仰過ぎるかもしれませんが、日本社会を守っていく事に繋がると思います。

ここにいるすべての本部員が力を結集させ、国土交通省の総力を挙げて、一気呵成に、「交通空白」の解消に向けて努力していきたくと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

#### ○事務局

ありがとうございました。ただいまの本部長訓示を本部員全員がしかと胸に刻んで、全力で取り組んでまいりたいと存じます。

#### 4. 閉会

#### ○事務局

本日の議事は以上となります。それでは、これをもちまして第1回「交通空白」解消本部を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。